

コニシ

4956 東証 1 部

<http://www.bond.co.jp/ir/>

2016 年 7 月 12 日 (火)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 客員アナリスト
寺島 昇

[企業情報はこちら >>>](#)

■ 新中期経営計画では 2018 年 3 月期に売上高 1,360 億円を目指す

コニシ <4956> は、「ボンド」ブランドで知られる国内トップクラスの接着剤・シーリング材メーカーである。一般家庭用が有名であるが、産業用、住宅・建材用、建築・土木用と幅広い製品をそろえており、主たる市場は住宅・建築・土木関連である。

2016 年 3 月期の業績は、売上高 118,860 百万円（前期比 2.7% 増）、営業利益 6,378 百万円（同 20.1% 増）、経常利益 6,387 百万円（同 16.9% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 3,763 百万円（同 23.6% 増）となった。主力のボンド事業、さらに新たにセグメント分けされた土木建設工事が好調であった。加えて原材料価格低下の効果もあり営業利益は大幅増益となりほぼ過去最高水準（2014 年 3 月期、6,475 百万円）にまで回復した。

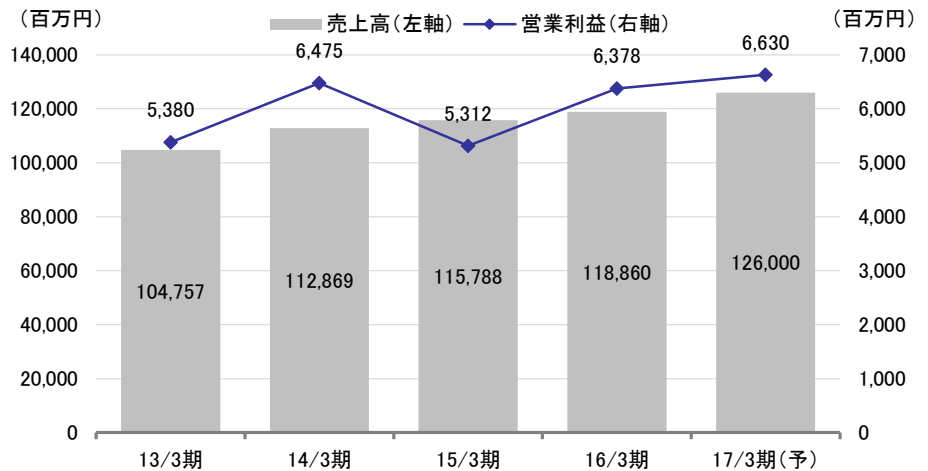
2017 年 3 月期の業績見通しは、売上高 126,000 百万円（前期比 6.0% 増）、営業利益 6,630 百万円（同 3.9% 増）、経常利益 6,710 百万円（同 5.0% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 4,180 百万円（同 11.1% 増）が予想されている。住宅向けを中心に各業種向けで上伸が見込まれ、増収・増益となる見込みだ。

新しい中期経営計画（3ヶ年）を発表している。数値目標は 2018 年 3 月期に売上高 136,000 百万円（2015 年 3 月期比 17.5% 増）、経常利益 7,400 百万円（同 35.4% 増）、経常利益率 5.4%（同 4.7%）、ROE8.0%（同 6.7%）となっており、売上高、経常利益ともに過去最高を目指している。

■ Check Point

- ・各事業とも堅調で 2017 年 3 月期も増収増益を見込む
- ・最終年度の 2018 年 3 月期に売上高 1,360 億円を目指す中期経営計画
- ・安定配当を目指し、2017 年 3 月期は前年比 2 円増の年間 22 円配当を予想

業績の推移



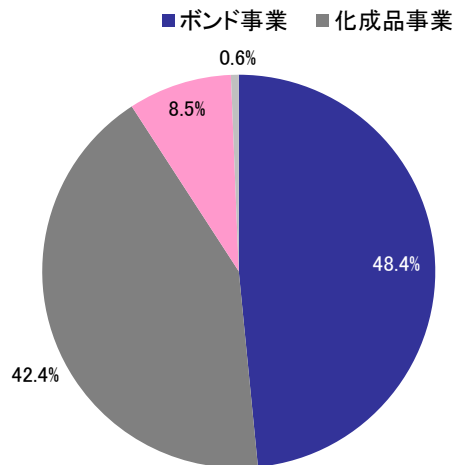
■ 事業概要

主力は債券事業と化成品事業。新たに土木建設工事をセグメントに変更

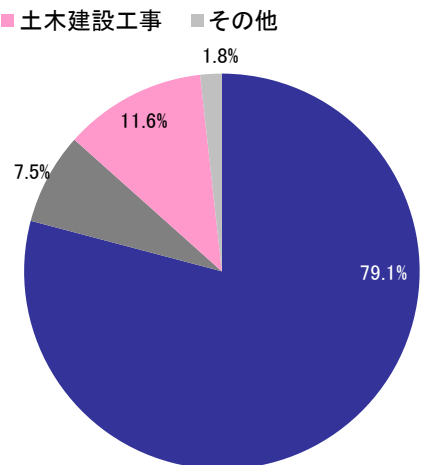
(1) 事業内容

現在、同社の事業セグメントは、債券事業、化成品事業（化学品の商社業）、土木建設工事、その他の 4 部門に分けて開示されており、2016 年 3 月期の売上高比率は、債券事業 48.4%、化成品事業 42.4%、土木建設工事 8.5%、その他 0.6% となっている。土木建設工事について以前は、その他に含まれていたが、売上高が大きくなったことから 2016 年 3 月期からセグメント分けされた。営業利益では債券事業が約 80.0% と大部分を占めている。これは、化成品事業が仕入販売を行う商社事業であるのに対して、債券事業は自社で製造・販売を行っているためである。各事業の概要については以下のとおりとなっている。

セグメント別売上高
(2016年3月期:118,860百万円)



セグメント別営業利益
(2016年3月期:6,378百万円)



a) ボンド事業

ボンド事業では、主に工業用・一般家庭用の各種接着剤、シーリング材及びワックス・両面テープ等の製造販売を国内外で行っている。アイテム数は「ボンド」のブランドが付く商品だけで約 6,500 アイテムに上り、業界での品ぞろえは国内で群を抜いている。また子会社サンライズ・エム・エス・アイ(株)(以下、サンライズ MSI)では主に戸建て用の建築用シーリング材や自動車用シール材・接着剤を製造・販売している。もう 1 つの子会社ウォールボンド工業(株)(旧矢沢化学工業(株))は壁紙用接着剤の製造販売を行っている。

b) 化成品事業

化成品事業では石油化学製品、合成樹脂、工業用薬品全般、電子機能性材料の仕入販売、「月浪印(つきなみじるし)※エタノール」の製造・販売を行っているが、主たる業務は商社的な事業である。同社の根源とも言える事業であるが、利益率は低いので、新しい中期経営計画では抜本的な改革を推進する計画だ。

c) 土木建設工事

前期(2016 年 3 月期)から新しいセグメントとして、それまでの「その他事業」から分離された。内容は子会社のボンドエンジニアリング(株)、コニシ工営(株)、近畿鉄筋コンクリート(株)で手掛ける工事請負事業だが、官公庁、鉄道会社、道路公団等から発注された道路、鉄道、トンネル、橋梁などの補修・補強工事を請負うもの。同社の場合は接着剤メーカーとしてのノウハウ、経験を活かした補修・補強工事を専門で行っているのが特色。

d) その他

その他事業は不動産賃貸業や化学品のデータベース事業等。

数量・金額とも国内トップシェアを誇る合成接着剤

(2) 競合と市場シェア

主力製品である合成接着剤においては生産量ベースでの市場シェアは 10% 強の水準と推計され、ここ数年はわずかながら上昇トレンドにある。また、金額ベースのシェアは 12 ~ 13%(建設用シーリング材を除く)と推計され、国内では数量、金額ともトップシェアとなっている。

主な競合企業は、一般家庭用ではセメダイン<4999>、住関連用では主にアイカ工業<4206>、セメダイン<4999>、(株)オーシカ等がある。建設シーリング材では横浜ゴム<5101>、サンスター技研(株)などと競合する。建設・土木用では、接着剤ではショーボンド化学(株)との競合となるが、実際の工事現場では子会社のボンドエンジニアリングがショーボンド建設(株)と競合する格好となっている。また、工場生産用では昭和電工<4004>、DIC<4631>、光洋産業等、業界によって様々な競合企業がある。また、エレクトロニクス製品の生産用ではセメダインや(株)スリーボンドと競合するが、両面テープまで広げると日東電工<6988> やスリーエムジャパン(株)が競合企業として挙げられる。

圧倒的なブランド力と豊富な製品ラインアップを誇る接着剤専門メーカー

(3) 特色、強み

同社の特色、強みを要約すると以下ようになる。

a) ブランド力

同社の最大の強みは「ボンド」の持つ圧倒的なブランド力である。一般家庭向けの「ボンド・木工用」から建築用、産業用の「ボンド」まで、老若男女を問わず誰もが「ボンド」の名を知っている。

b) 製品ラインアップと販売網

前述のように製品ラインアップが豊富なことも同社の特色である。また、幅広い製品ラインアップは企業の収益基盤としての強みでもある。

c) 接着剤専業としての強みと販売網

前述のように多くの競合企業（セメダインを除く）は接着剤の専門メーカーではなく、化学品メーカーが多い。言い換えれば、競合企業にとって接着剤は本業ではなく1つの事業でしかない。これに比べて同社は接着剤専業メーカーであるため、顧客からの信頼は厚い。これも同社の特色であり、強みだろう。

■ 業績動向

2016年3月期は増収増益、営業利益・経常利益は計画を上回る

(1) 2016年3月期の実績

a) 損益状況

2016年3月期の業績

(単位：百万円、%)

	15/3期		16/3期		
	金額	構成比	実績	構成比	前年比
売上高	115,788	100.0	118,860	100.0	2.7
売上総利益	19,300	16.7	20,593	17.3	6.7
販管費	13,988	12.1	14,214	12.0	1.6
営業利益	5,312	4.6	6,378	5.4	20.1
経常利益	5,464	4.7	6,387	5.4	16.9
当期純利益	3,045	2.6	3,763	3.2	23.6

2016年3月期の業績は、売上高 118,860 百万円（前期比 2.7% 増）、営業利益 6,378 百万円（同 20.1% 増）、経常利益 6,387 百万円（同 16.9% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 3,763 百万円（同 23.6% 増）となった。売上高は計画を 1.7% 下回ったが、営業利益、経常利益は計画を各々 6.9%、5.8% 上回っており、好調な結果であったと言える。

営業利益の増減要因を見ると、マイナス要因としては販売管理費の増加 225 百万円、工場経費の増加 241 百万円、製品価格の下落 52 百万円等があったが、プラス要因としては、原材料価格の変動（下落）970 百万円、販売数量増による利益増 615 百万円があり、結果前期比で 1,066 百万円の増加となった。増益の大部分は原材料価格の変動によるものであるが、実際には前々期に大きく下落した分（約 560 百万円）が戻ったと言える。

2016 年 3 月期のセグメント (事業) 別売上高

(単位: 百万円、%)

	15/3 期		16/3 期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	115,788	100.0	118,860	100.0	3,072	2.7
ボンド事業	56,227	48.6	57,578	48.4	1,351	2.4
化成品事業	49,169	42.5	50,389	42.4	1,220	2.5
土木建設工事事業	9,614	8.3	10,132	8.5	518	5.4
その他	776	0.7	760	0.6	-16	-2.1
営業利益	5,312	4.6	6,378	5.4	1,066	20.1
ボンド事業	4,303	-	5,042	-	739	17.2
化成品事業	383	-	477	-	94	24.1
土木建設工事事業	504	-	742	-	238	46.1
その他	112	-	112	-	0	0.0
(調整額)	8	-	3	-	-	-

セグメント (事業) 別の状況は以下のようであった。

ボンド事業では土木建築用を中心に同社単独の分野で堅調な伸び

1) ボンド事業

セグメント売上高は 57,578 百万円 (同 2.4% 増) 営業利益は 5,042 百万円となった。業界別の売上高及び状況は以下のようであった。

(単位: 百万円)

	15/3 期	16/3 期	(伸び率)
一般家庭用	6,338	6,550	3.3
住関連	19,851	20,569	+3.6
産業資材	6,067	6,269	+3.3
土木建築	11,672	12,201	+4.5
ウォールボンド	2,759	2,523	-8.6
サンライズMSI	8,151	7,931	-2.7
合計	56,227	57,578	+2.4

○一般家庭用: 売上高 6,550 百万円 (前期比 3.3% 増)

積極的な販売促進により好調に推移した。年間の広告宣伝費を上半期にやや前倒して使った効果もあり手芸や裁縫に使われる「ボンド 裁ほう上手」が堅調に推移した。さらに「100円ショップ」向け製品類の販売も好調であった。

○住関連用: 売上高 20,569 百万円 (同 3.6% 増)

新築住宅向けが消費税増税の影響から脱却して回復したことから好調に推移した。第 1 四半期で出遅れたものの、第 2 四半期以降大きく盛り返し通年では増収となった。用途別では建築資材用は 2,468 百万円 (同 0.6% 増) とほぼ横ばいであったが、現場施工用は売上高 18,101 百万円 (同 4.0% 増) と好調であった。一方で、子会社のサンライズ MSI の住関連売上高は競争激化により一部の案件を取り損なったことから 6,398 百万円 (同 6.3% 減) となった。もう一つの子会社であるウォールボンド工業 (16 年 4 月に矢化学工業から社名変更) の売上高は 2,523 百万円 (同 8.6% 減) であったが、これは決算期のずれ (前々期は 13 ヶ月決算) によるもので、実質 12 ヶ月ベースでの比較では 3.2% 増となっている。

○産業資材用: 売上高 6,269 百万円 (同 3.3% 増)

主な製品はパネル用途向けウレタン系接着剤、自動車関連産業向け離型剤、産業用ホットメルト系接着剤などだが、特に紙関連、パネル用での需要が堅調で増収となった。

○土木建築用：売上高 12,201 百万円 (同 4.5% 増)

土木用は 2,016 百万円 (同 2.0% 増) となったが、これは道路やトンネル、橋梁など社会インフラ向け需要が堅調であったことに加えてシェアも上がっていることによる。建設用も建築物のリニューアル工事の発注等が増加して 10,185 百万円 (同 4.5% 増) と好調に推移した。全体的には需要は底堅く傾向としては上向いている。

自動車が落ち込むも、電子・電機、化学工業向けが堅調だった 化成品事業

2) 化成品事業

化成品事業の売上高は 50,389 百万円 (同 2.5% 増)、営業利益は 477 百万円 (同 24.1% 増) となった。

(単位：百万円)

	15/3 期	16/3 期	(伸び率)
自動車	15,459	14,820	-4.1
電子・電機	7,239	7,577	+4.7
化学工業	5,351	5,638	+5.4
塗料	5,280	5,207	-1.4
その他	1,445	1,608	+11.3
丸安産業	11,419	12,118	+6.1
合計	49,169	50,389	+2.5

コニシ単独の化成品事業売上高は 18,816 百万円 (同 1.3% 減) となった。向け先別では、自動車向けは 7,017 百万円 (同 8.2% 減) と落ち込んだが、これは国内・海外での自動車生産が低調であったことによる。電子・電機向けは 2,960 百万円 (同 11.6% 増)、化学工業向けも 3,727 百万円 (同 4.5% 増) と久しぶりに前年同期比で増収となったが、これは比較的大きな案件 (プラスチックケース向けの樹脂等) を獲得したことによる。塗料は 2,610 百万円 (同 2.5% 減)、その他 1,831 百万円 (同 0.8% 減) となったが売上規模が小さいので部門に与える影響も小さい。主要子会社の丸安産業の売上高は 6,108 百万円 (同 10.1% 増) と好調であったが、これは主に医薬中間体関係の新規受注があったことによる。

3) 土木建設事業

2016 年 3 月期から新たにセグメント分けされた土木建設工事の売上高は 10,132 百万円 (同 5.4% 増)、営業利益は 742 百万円 (同 46.1% 増) となった。インフラ・ストック市場の補修・改修・耐震・補強工事が堅調に推移し、部門売上高として初めて 100 億円の台を越えた。過去 5 年間で売上高は約 2 倍に成長している。

(単位：百万円)

	15/3 期	16/3 期	(伸び率)
ボンドエンジニアリング	7,147	7,970	+11.5
コニシ工営	1,126	1,485	+31.8
近畿鉄筋コンクリート	1,367	680	-50.2
合計	9,614	10,132	+5.4

主要子会社であるボンドエンジニアリング、コニシ工営は増収であったが、近畿鉄筋コンクリートは減収となった。近畿鉄筋コンクリートが減収となったのは、自然災害や人手不足による工事遅れにより案件が後ずれしたため、17 年 3 月期には通常レベルに戻る見込みだ。

4) その他事業

化学品のデータベース事業が中心だが、売上高 760 百万円 (同 2.1% 減)、営業利益 112 百万円 (同 0.0%) と前期並みであった。金額が少ないため全体に与える影響は少ない。

営業活動によるキャッシュフローは 64 億の収入

b) 財務状況

2016 年 3 月期末の財務状況は、流動資産は 802 百万円増加し 61,612 百万円となった。主に現預金の増加 2,000 百万円、売掛債権の減少 1,590 百万円、棚卸資産の増加 117 百万円による。有形固定資産の増加 463 百万円、投資その他資産の減少 185 百万円等から、固定資産は前期末比で 289 百万円増加し 25,598 百万円となった。その結果、総資産は 87,212 百万円（前期末比 1,092 百万円増）となった。

負債合計は、仕入債務の減少 617 百万円、短期借入金の増加 89 百万円、退職給付にかかる負債の増加 85 百万円等から、35,581 百万円（同 139 百万円増）となった。また純資産合計は主に四半期純利益の計上等から、51,629 百万円（同 952 百万円増）となった。

貸借対照表

(単位：百万円)

	15/3 期末	16/3 期末	増減額
現金・預金	16,361	17,117	+756
受取手形・売掛金	35,649	36,480	+831
棚卸資産	7,044	6,617	-427
流動資産計	60,810	61,721	+911
有形固定資産	15,394	15,688	+294
無形固定資産	957	983	+26
投資その他資産	8,958	8,595	-363
固定資産計	25,309	25,267	-42
資産合計	86,119	86,988	+869
仕入債務	25,763	26,260	+497
短期借入金	318	300	-18
流動負債計	30,224	31,685	+1,461
退職給付にかかる負債	659	1,031	+372
固定負債計	5,218	5,269	+51
負債合計	35,442	36,955	+1,513
純資産合計	50,677	50,031	-646

c) キャッシュフローの状況

営業活動によるキャッシュフローは 6,451 百万円の収入であったが、主な収入は税金等調整前当期純利益の計上 6,031 百万円、減価償却費 1,891 百万円、主な支出は売上債権の増加による支出 839 百万円等による。投資活動によるキャッシュフローは 1,316 百万円の支出であったが、主に有形固定資産の取得による支出 1,381 百万円等による。財務活動によるキャッシュフローは 3,837 百万円の支出であったが、主に配当金の支払い 691、自己株式の取得 3,046 百万円による。

以上から 2016 年 3 月期の現金及び現金同等物は 1,213 百万円増加し、期末残高は 15,863 百万円となった。

キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	15/3 期	16/3 期
営業活動によるCF	4,057	6,451
税金等調整前純利益	5,285	6,031
減価償却費	1,658	1,891
売上債権の増減額 (▲増加)	▲ 127	▲ 839
棚卸資産の増減額 (▲は増加)	19	184
仕入債務の増減額 (▲は減少)	7	515
投資活動によるCF	▲ 3,324	▲ 1,316
有形固定資産の取得	▲ 3,105	▲ 1,984
財務活動によるCF	▲ 878	▲ 3,837
借入金の純増減額 (▲減少)	▲ 192	▲ 14
自己株式の取得	0	▲ 3,046
配当金の支払額	▲ 611	▲ 691
現金および現金同等物増減額	▲ 118	1,213
現金および現金同等物期末残高	14,650	15,863

各事業とも堅調で 2017 年 3 月期は増収増益を見込む

(2) 2017 年 3 月期の業績見通し

a) 損益状況

2017 年 3 月期の業績見通し

(単位：百万円、%)

	16/3 期		17/3 期 (予)		
	金額	構成比	金額	構成比	前年比
売上高	118,860	100.0	126,000	100.0	6.0
ボンド事業	57,578	48.4	60,150	47.7	4.5
化成品事業	50,389	42.4	53,620	42.6	6.4
土木建設事業	10,132	8.5	11,390	9.0	12.4
その他	760	0.6	810	0.6	6.6
営業利益	6,378	5.4	6,630	5.3	3.9
ボンド事業	5,042	-	5,270	-	4.5
化成品事業	477	-	480	-	0.6
土木建設事業	742	-	750	-	1.1
その他	112	-	120	-	7.1
(調整額)	3	-	0	-	-
経常利益	6,387	5.4	6,710	5.6	5.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,763	3.2	4,180	3.5	11.1

2017 年 3 月期の業績は、売上高 126,000 百万円 (前期比 6.0% 増)、営業利益 6,630 百万円 (同 3.9% 増)、経常利益 6,710 百万円 (同 5.0% 増)、親会社株主に帰属する当期純利益 4,180 百万円 (同 11.1% 増) が予想されている。

セグメント別では、ボンド事業の売上高は 60,150 百万円 (同 4.5% 増)、営業利益は 5,270 百万円 (同 4.5% 増)、化成品事業の売上高は 53,620 百万円 (同 6.4% 増)、営業利益は 480 百万円 (同 0.6% 増)、土木建設事業の売上高は 11,390 百万円 (同 12.4% 増)、営業利益は 750 百万円 (同 1.1% 増)、その他事業の売上高は 810 百万円 (同 6.6% 増)、営業利益は 120 百万円 (同 7.1% 増) と予想されている。

主に以下のような重点施策を実行していく計画だ。

1) グループ全体で事業拡大

ウォールボンド工業(旧矢沢化学工業)とのタイアップをさらに強化する。コニシの販売ルートを利用すると同時に、コニシブランドでの製品供給も開始、売上高 100 百万円を目指す。これによって西日本地区でのシェアアップを図ると同時にハウスメーカーへの導入も積極的に進める。

2) コア事業での販売強化

ボンド事業の主力製品である「床施工用接着剤」のシェア拡大を目指す。同製品の売上高は 2013 年 3 月期の 3,472 百万円から 2016 年 3 月期には 3,925 百万円まで増加したが、今期(2017 年 3 月期)には 4,175 百万円を目指す。新規ハウスメーカーへの導入や建材メーカーへのスペックインにより更なるシェア拡大(2016 年 3 月期 57.9% → 2017 年 3 月期 62.0%)を計画している。

「外壁タイル用接着剤」でも、高耐候性タイプを市場投入することで販売を伸ばす方針だ。

また「鋼製パネル用接着剤」においても、トラック保冷車用パネル、鋼製ドア・カーテンウォール等への拡販に取り組みシェア拡大(2016 年 3 月期 55.2% → 2017 年 3 月期 61.1%)を目指す。売上高も 2016 年 3 月 400 百万円から 2017 年 3 月期には 518 百万円を計画している。

3) 事業拡大による成長戦略：国内

成長分野である土木建設事業をさらに拡大する。まず土木建設セグメントに含まれる連結子会社では、道路・鉄道・トンネル・橋梁等のインフラ整備を中心とした工事の受注を今期もさらに拡大させる。

またコニシ本体においてもここ数年売上高が 2,000 百万円前後で伸び悩んでいた「土木用接着剤・工法」の販売を土木開発部を中心に強化する。

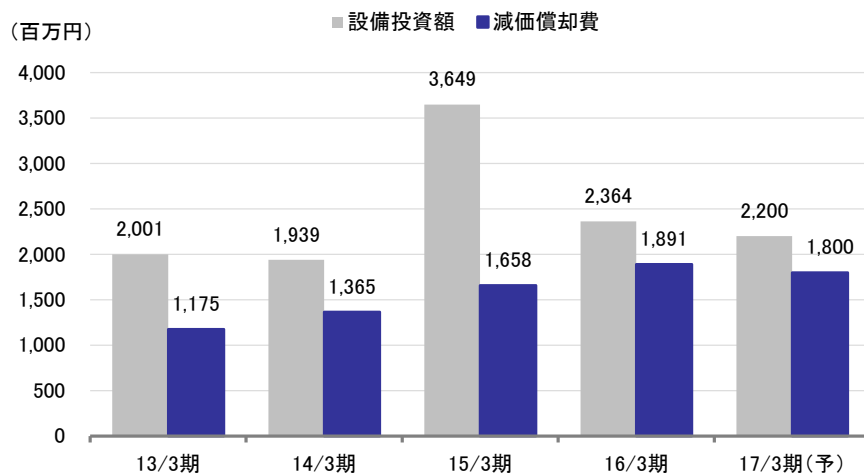
4) 事業拡大による成長戦略：海外

中国・東南アジアを中心に海外での事業も拡大する。中国では化成品は自動車業界への製品供給を拡大し、ボンドのユーザー、代理店を活用して新規業界への拡販を図る。ボンド製品においては、紙関連の市場開拓、自動車用離形剤、土木業界向けエポキシ系の拡販に注力する。またベトナムにおいては、生産量が月産 150 トンまで拡大したが、ベトナム全土及び近隣国へ商圏を拡大することで、月産 180 トン(損益分岐点)を目指す。

b) 設備投資計画

同社の設備投資額は前々期(2015 年 3 月期)に 3,649 百万円と大幅に増加したが、前期(2016 年 3 月期)は 2,364 百万円へ低下した。今期(2017 年 3 月期)も 2,200 百万円と通常レベルの投資となる計画だ。この結果、減価償却費は前期の 1,891 百万円がピークで、今後は穏やかに低下していく見込み。

設備投資額と減価償却費の推移



■ 中期経営計画

最終年度の 2018 年 3 月期に売上高 1,360 億円を目指す中期経営計画

「中期経営計画 2018」の数値目標

同社は 2018 年 3 月期を最終年度とする「中期経営計画 2018」を発表している。前回の中期経営計画が「基礎固めと成長」の時期であったのに対し、今回は「成長の継続」を目標に掲げている。さらにその先の 2020 年に同社は創業 150 年を迎えるが、そのときの「あるべき姿」実現に向けてのステップアップの時期と位置付けている。

最終年度である 2018 年 3 月期の業績としては、売上高 136,000 百万円 (2015 年 3 月期比 17.5% 増)、経常利益 7,400 百万円 (同 35.4% 増)、経常利益率 5.4% (2015 年 3 月期実績 4.7%)、ROE 8.0% を目標としている。前期 (2016 年 3 月期) 実績、今期 (2017 年 3 月期) 予想は、この中期経営計画に向けて着実に進捗していると言える。

	2018 年 3 月期	伸び率	2015 年 3 月期
売上高 (百万円)	136,000	(+17.5%)	115,788
経常利益 (百万円)	7,400	(+35.4%)	5,464
経常利益率 (%)	5.4		4.7
ROE (%)	8.0		6.7

注: 「伸び率」は 2015 年 3 月期比

■ 配当政策 (株主還元)

継続的な配当を目指し、2017 年 3 月期は前年比 2 円増の年間 22 円配当を予想

同社は今期より、毎期の業績等を勘案しながら連結配当性向 20% を目安に利益を還元するとともに、継続的な配当を実施するとしている。2017 年 3 月期の予想年間配当は 22 円で、前期の 20 円 (2016 年 4 月 1 日付け 1:2 の株式分割調整後) からは 2 円増配となっている。配当性向としては決して高いとは言えないが、一方で 2015 年 11 月には 1,366 千株 (総額 3,046 百万円、1 株当たり 2,230 円) の自社株買いを実施、2016 年 4 月 1 日付で株式の流動性の向上、投資家層の更なる拡大を目的として、普通株式 1 株につき 2 株の割合による株式分割を実施している。

ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ